

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第46週 2025年11月10日（月）～2025年11月16日（日）2025年11月20日作成

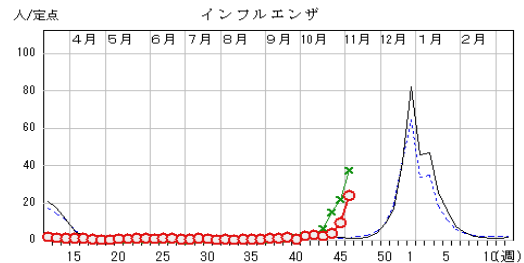
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第46週の報告数は1,220人で、前週より750人多く、定点当たりの報告数は23.92であった。

年齢別では、10歳未満（710人）、10～19歳（367人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（59.55）、県央保健所（25.38）、佐世保市保健所（24.14）であった。

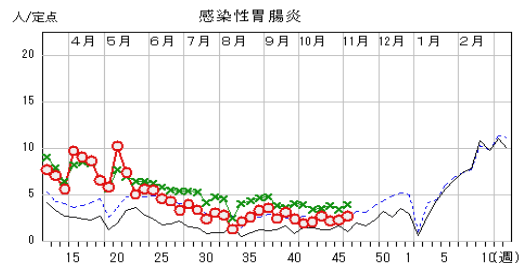


（2）感染性胃腸炎

第46週の報告数は84人で、前週より12人多く、定点当たりの報告数は2.71であった。

年齢別では、1歳（13人）、5歳（12人）、3歳（11人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（12.50）、西彼保健所（7.00）であった。

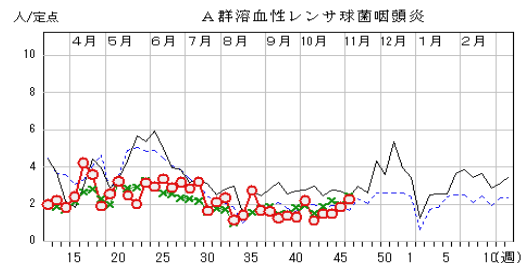


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第46週の報告数は70人で、前週より13人多く、定点当たりの報告数は2.26であった。

年齢別では、10～14歳（14人）、5歳（13人）、9歳（12人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、県南保健所（8.00）、西彼保健所（5.00）、県央保健所（3.00）であった。



○ 当年（長崎県） — 前年（長崎県）
× 当年（全国） - - 前年（全国）

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数が変更されました）

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第46週の報告数は1,220人で、定点当たり報告数は23.92となりました。注意報レベル基準値「10.0」を上回り、県地域保健推進課よりインフルエンザ流行注意報が発表されました。地区別によると、長崎地区（59.55）で警報レベル、県央地区（25.38）、佐世保地区（24.14）、西彼地区（17.80）、県北地区（11.00）で注意報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、大きな流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】

第46週の報告数は84人で、定点当たりの報告数は2.71でした。地区別にみると、県北地区（12.50）、西彼地区（7.00）は他の地区より多くなっています。例年冬期に患者数が増加する傾向にあります。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第46週の報告数は70人で、前週より13人多く、定点当たりの報告数は2.26でした。地区別では、県南地区（8.00）が、警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

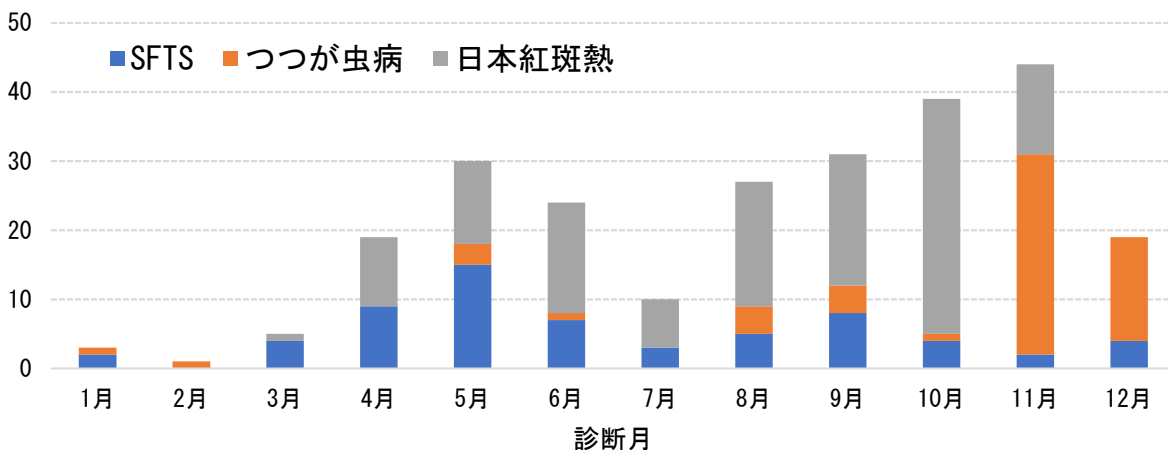
☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第46週に、つつが虫病1件の報告がありました。

過去5年の県内の発生状況をみると、11月につつが虫病的報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

(件) 長崎県におけるダニ媒介感染症の月別患者報告数（2020年～）



長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	6 (6)	6 (6)	13 (13)	13 (10)	13 (12)	12
日本紅斑熱	18 (18)	28 (28)	22 (22)	14 (13)	24 (23)	24
つつが虫病	11 (4)	14 (8)	7 (3)	15 (9)	11 (5)	1

※()は第46週までの発生件数

☆トピックス：インフルエンザ流行注意報が発表されました

2025年第46週（11月10日～11月16日）の患者報告数は1,220人で、定点当たり報告数は23.92となりました。注意報レベル基準値「10.0」を上回ったことから、県地域保健推進課は、11月20日に**インフルエンザ流行注意報**を発表しました。

地区別にみると、長崎地区（59.55）で警報レベル、県央地区（25.38）、佐世保地区（24.14）、西彼地区（17.80）、県北地区（11.00）で注意報レベルの報告数となっています。

年代別では、10歳未満（58%）、10代（30%）が多く、小中学校の臨時休業も前週より増加しています。

注意報が発表され、今後大きな流行が懸念されますので、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

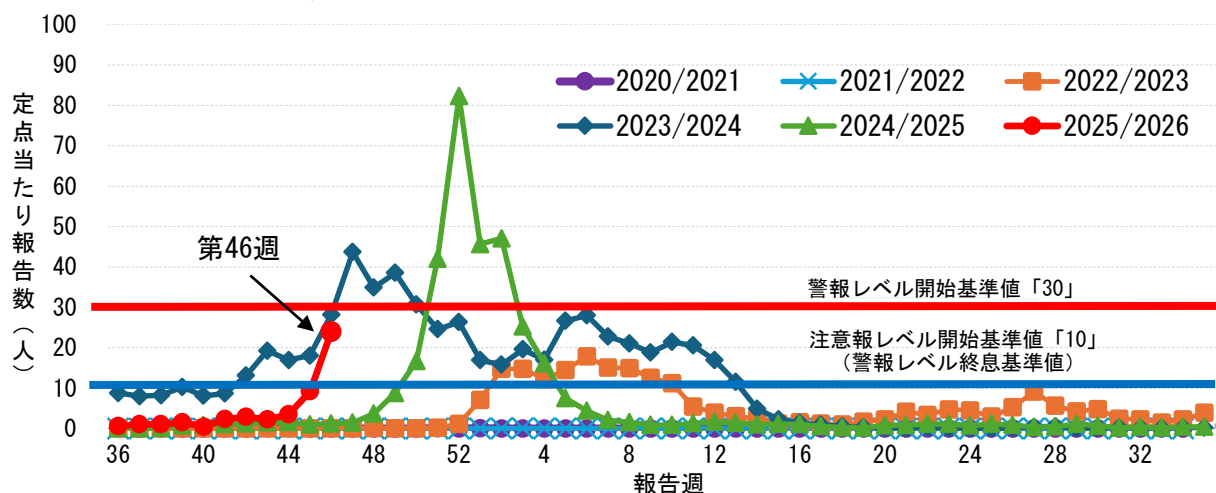
【参考】厚生労働省 「インフルエンザ総合ページ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/index.html

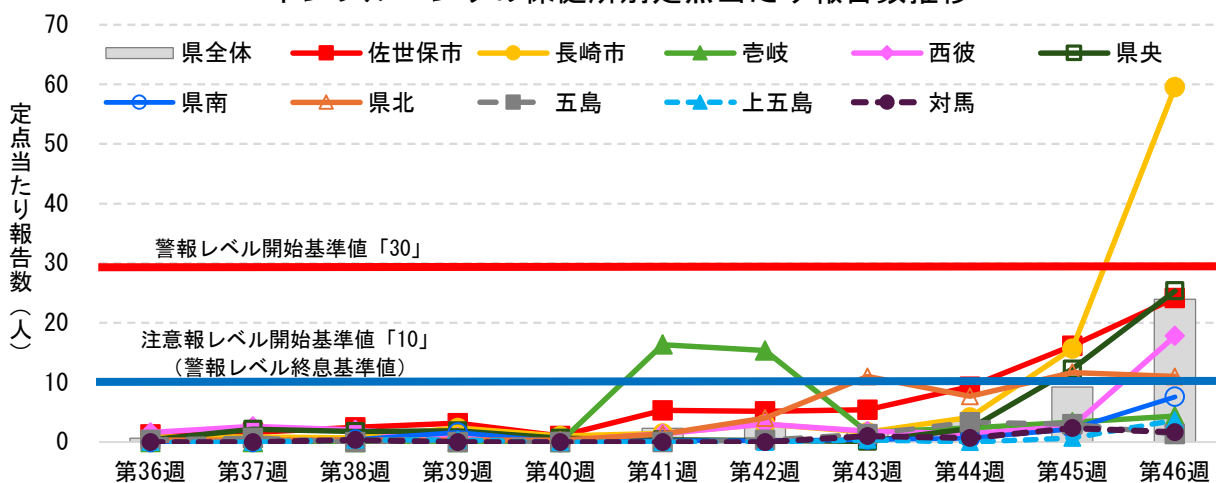
【参考】長崎県地域保健推進課 「2025/2026シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等」

<https://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/744804.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



インフルエンザの保健所別定点当たり報告数推移



インフルエンザの年代別患者報告数

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
報告数(人)	710	367	29	34	38	15	17	7	3
報告割合(%)	58.2	30.1	2.4	2.8	3.1	1.2	1.4	0.6	0.2

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・2名） 女性（20代・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：つつが虫病 患者 女性（80代以上・1名）

5類感染症：後天性免疫不全症候群 患者 男性（40代・1名）
 百日咳 患者 男性（10歳未満・1名、10代・1名、40代・1名）
 女性（10歳未満・1名、10代・2名、30代・1名、40代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第41～46週、10/6～11/16)

疾患名	定点当たり患者数					
	41週	42週	43週	44週	45週	46週
	10/6～	10/13～	10/20～	10/27～	11/3～	11/10～
インフルエンザ	2.29	2.86	2.24	3.53	9.22	23.92
新型コロナウイルス感染症	4.92	2.36	1.39	1.16	0.76	1.14
RSウイルス感染症	1.71	1.39	1.35	0.68	0.71	0.81
咽頭結膜熱	0.52	0.35	0.84	0.65	0.48	0.39
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.19	1.13	1.48	1.48	1.84	2.26
感染性胃腸炎	1.94	2.10	2.68	2.16	2.32	2.71
水痘	0.32	0.06	0.10	0.03	0.19	0.06
手足口病	0.10	0.13	0.16	0.23	0.26	0.32
伝染性紅斑（リンゴ病）	3.29	2.81	1.90	2.03	1.58	1.81
突発性発しん	0.32	0.32	0.16	0.39	0.29	0.35
ヘルパンギーナ		0.06		0.03	0.03	0.06
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03	0.03	0.06	0.03	0.03	
急性出血性結膜炎		0.13	0.13			
流行性角結膜炎	3.13	1.63	2.13	2.13	1.00	2.00
細菌性髄膜炎		0.08				
無菌性髄膜炎	0.25	0.08	0.42	0.08		0.17
マイコプラズマ肺炎	1.33	1.33	1.33	1.42	0.75	0.83
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	64.18	55.04	56.69	68.65	68.35	81.33

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第46週、11/10～11/16) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	23.92	24.14	59.55	4.33	17.80	25.38	7.60	11.00	1.33	3.67	1.67
新型コロナウイルス感染症	1.14	0.43	1.18	2.67	1.40	0.25	2.60	0.33	1.00		2.67
RSウイルス感染症	0.81	0.25	0.50			0.80	1.00	7.00			
咽頭結膜熱	0.39	0.75	0.67				0.67	1.50			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.26	2.00	0.83		5.00	3.00	8.00				1.50
感染性胃腸炎	2.71	3.00	2.17	0.50	7.00	2.40		12.50			
水痘	0.06		0.17	0.50							
手足口病	0.32		1.67								
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.81	2.25	0.83		2.33	2.80	3.33	3.00	2.50		
突発性発しん	0.35	0.75	0.67	0.50		0.40		0.50			
ヘルパンギーナ	0.06		0.17			0.20					
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	2.00		0.67			1.00	13.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.17	1.00				1.00					
マイコプラズマ肺炎	0.83	2.00	2.00	1.00			1.00				
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	81.33	87.43	155.64	42.00	107.20	87.63	33.40	42.67	3.00	24.67	27.67